



巻頭インタビュー

次代を担う子どもたちに 科学に慣れ親しむ場を！

科学を通じた人間教育、人材育成活動に尽力する

子どもの理科離れをなくす会代表 北原達正さん

子どもたちに科学の楽しさやおもしろさを教え、科学を通じた人間教育、人材育成活動に尽力する「子どもの理科離れをなくす会」代表の北原さんをインタビュー。

Q 子どもたちの理科離れは深刻なのですか。

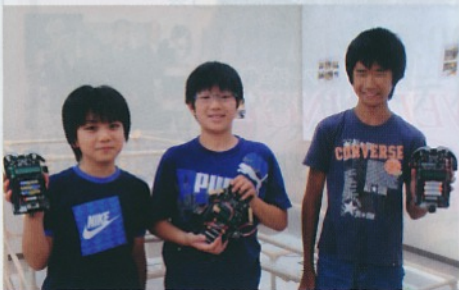
日本の子どもたちの理科離れは小学生高学年から中学校にかけて進行しているようです。好奇心が旺盛なこの時期に子どもたちに適切な科学的知識を与えて興味をかきたて、刺激を与えることで科学全体を見る目と将来への展望が開けてくると思います。私たちは現場の

Q 同会は2001年に設立されていますが、そのきっかけは？

野球やサッカーなどはグラウンドもあり、好きなチームに入って活動できるのに、理科が好きな子は活動できる場がない。しかも野球などはがんばれば親からもほめてもらえるのに、ロボットやプログラムをつくっても「ほー」っていわれる程度。理数に対する大人の偏見をなくしたい。ものづくり立国、科学立国といわれていますが、将来の日本を背負うはずの若い人たちがこれではいけない。子どものうちから科学に継続して慣れ親しむ場をということでした。



ロボカップジュニア全日本大会で準優勝に輝いた彦根の中学生チーム「シューティングスター」の丸健太くん(左)と清水悠馬くん



写真左から、馬場峻平くん(小5)、草野尚太くん(中1)、堀口日向くん(中1)。3人は自律型ロボットが大好きで、彦根市サイエンス・ラボでロボット競技を練習。草野くんは「ロボットのプログラムがうまくいったらスカッとします。めざすは北原先生」といい、馬場くんは「ロボットで人の役に立ちたい」と、堀口くんは「将来は物理学の先生になりたい」と、それぞれ夢がふくらむ。



彦根市サイエンス・ラボで北原先生の講座風景

ロボカップとは

RoboCupは、ロボット工学と人工知能の融合、発展のために自律移動ロボットによるサッカーを題材として日本の研究者らが提唱。西暦2050年「サッカーの世界チャンピオンチームに勝てる、自律型ロボットのチームをつくる」という夢に向かって人工知能やロボット工学などの研究を推進し、さまざまな分野の基礎技術として波及させることを目的としたランドマーク・プロジェクト。現在、サッカーだけでなく、大規模災害へのロボットの応用としてレスキュー、次世代の技術の担い手を育てるジュニアが組織。





【プロフィール】 きたはら・たつまさ

京都大学総合人間学部・大谷大学の各講師。文科省21世紀プラン・大津市子ども科学教室推進委員会委員長。特定非営利活動法人ロボカップ日本委員会ジュニア運営委員も務める。51歳。大津市在住。
<http://e-kagaku.com>

先生方と密接に情報交換しながら、子どもたちへ最先端科学のすばらしさを伝える、そんなサポートをしています。

Q 「…理科離れをなくす会」の活動と成果を。

全国の小中学校を訪ねて、ロボット作りや科学実験などの出張講座を開いたり、一般・会員向けにも科学実験やロボット研究室、合宿などを行っています。私たちの会は多彩な科学実験メニューを用意して

いまして、文部科学省や日本科学未来館などの科学館、開成や学習院などの私立中高一貫校で採用され、多くの生徒たちがロボットを使った科学実験を学びました。会員の子どもの中に大津市の公立中学校に通う二人組が「ロボカップ世界選手権・ジュニア部門」で優勝し、世界チャンピオンになったり、昨年は彦根の子どもたちのチーム「シューティングスター」がロボカップジュニア全日本大会で準優勝したり、科学教育の成果が出始めていることはうれしいですね。

Q 「彦根市サイエンス・ラボ」がオープンしましたね。

私たちの活動をよく理解いただいた彦根市の協力で誕生しました。「自律型ロボット」などさまざまな講座の開催や情報交換、ロボット競技の練習の場となりますので、多くの小・中学生に参加活用していただきたいと思います。

Q 「…理科離れをなくす会」のこれから？

子どもたちの成長には本当に驚かされますね。段階を踏んで指導することでとてつもないレベルに達します。きっと優秀な技術者や研究者も出てくるものと思っています。私たちの活動としては、科学教育の機会均等化をめざし、どんな地域でも高度な科学技術教育を継続して受けられる環境づくりを提供できるようにしていきたい。

彦根市の挑戦

サイエンスプロジェクトの推進

8月1日の彦根市サイエンス・ラボオープンでのテープカット(左端が獅山彦根市長)と北原先生



彦根市では、子どもたちの科学への好奇心や探究心を引き出し、ものづくりの楽しさを体験してもらうため、また、国際科学技術コンテストを通じて科学で世界にチャレンジできる機会を提供するために昨年度より「自律型サッカーロボット研究室」を実施するなど、彦根市サイエンスプロジェクトを推進。彦根市サイエンス・ラボは同プロジェクトの活動拠点としてオープンしたが、全国初の試みで注目されている。

問合せ先／彦根市教育委員会生涯学習課 TEL0749-24-7971
<http://www.city.hikone.shiga.jp/edu/syogai/science/indest.html>